

# やまと 民俗への招待

鹿谷 勲

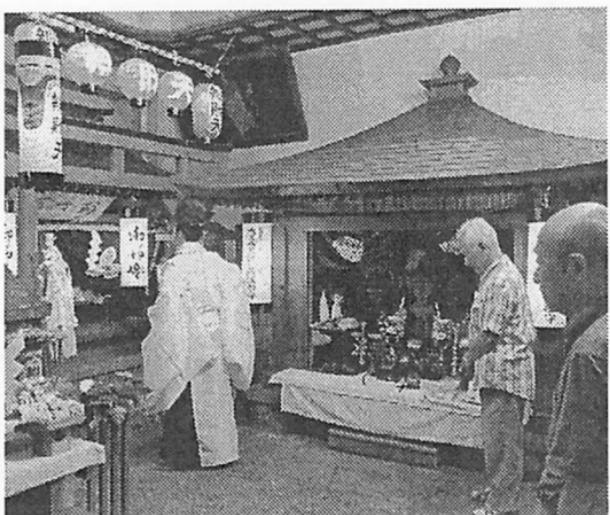
奈良市内に餅飯殿といふ繁華な商店街がある。元は落畠(富貴島)郷といつたが、弘法大師が天川弁財天を興福寺の南田堂の南西に勧請し、落畠の人々が餅と飯を供えた縁から、また役行者が開いた大峯山に大蛇がすみ着き、峯入りが途絶えていた時に、東大寺の聖宝(理源大師、832~909)が退治して、祝いにこの町から餅飯を献じたことから、現在の町名になったともいう。

聖宝とともに峯入りしたのは7人の町民ともいふが、その一人が箱屋勘兵衛だという。これが俗人の峯入りの最初だといい、餅飯殿山上講(理事)

## 聖宝ゆかりの大峯参り

長西村充良)として現在も活動を続けている。講は町内で家屋敷を持ち、居住している者で構成され、大峯山上講縁起・吉野曼荼羅・釈迦涅槃図、理源大師から授けられたという漆塗りのお守り箱などを所有している。

町内にも弁財天が勧請され、役行者や理源大師とともに毎年7月6、7日に夏祭りが行われる。



左が弁天社、右に役行者と理源大師をまつる  
=2017年7月7日撮影、筆者提供

7日朝には、東大寺から僧侶が出向いて、理源大師堂で慶讃法要が行われる。また講では毎年1回7月ごろに山上参りを行なう。今年は6月19日に日帰りで行われた。講の世話役で商店街で理容店を営む吉本雅俊さんに様子を聞いた。

7時45分に弁天登る一行は、正午前ごろに山上に到着。龍泉寺の宿坊でまず昼食を取り、その後、そろって大峯山寺本堂へ参る。特別

6時に出発。8時半には天川村洞川に着いた。ここで山上に登る者と登らない者に分かれる。登らない者は鳳閣寺の理源大師と箱屋勘兵衛の墓参りに入つて休息。夕方5時ごろに洞川を出て、夜7時ごろに餅飯殿町に帰着。その後、「精進落とし」としてみんなで会食した。

近年は、山上参りには町外の人も参加している。「きたまち豆腐」を営む戸田洋輔さんは、今年5回目。「参加しないと気持ち悪い」という。(奈良民俗文化研究所代

表

II 隔週掲載